

平成28年3月

各 位

## News Release

「公益財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団」

平成28年度

地域の伝統文化分野 助成対象先を決定

公益財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団（1991年6月設立・理事長大島雄次）では、地域の伝統文化（民俗芸能および民俗技術）の継承、特に後継者の育成を支援するため、昨年11月から平成28年度『地域の伝統文化保存維持費用助成』制度の助成対象候補者を公募してまいりました。このたび応募140件の選考を終えて43件の助成対象者を決定し、助成金目録の贈呈を行うこととなりましたので、ここにお知らせいたします。

なお、本年度の決定を含めた本制度による助成件数の累計は、当財団設立以来1,094件になります。

### 【お問い合わせ先】

公益財団法人明治安田クオリティオブライフ文化財団

〒160-0023

東京都新宿区西新宿1-9-1

明治安田生命新宿ビル2階

TEL. 03-3349-6194

FAX. 03-3345-6388

## 記

### 1. 公募方法と公募期間

都道府県の教育委員会または知事部局の担当課を推薦窓口とする要推薦制度の公募を、平成27年11月から平成28年1月29日まで行い、140件の申込を受付けた。

### 2. 助成対象

- (1) 地域の民俗芸能（民俗行事・民俗音楽を含む）の継承、特に後継者育成のための助成。
- (2) 地域の民俗技術（伝統的製作技術・衣食住に関わる生活技術・伝統工芸を含む）の継承、特に後継者育成のための助成。

### 3. 助成対象者の決定

選考委員会における選考審査（2月18日）を経た後、理事会の承認を得て決定。

【伝統文化分野選考委員】（敬称略）

委員長	岩井宏實	帝塚山大学名誉教授
委員	天野武	儀礼文化学会名誉会員
〃	小島美子	国立歴史民俗博物館名誉教授
〃	田中宣一	成城大学名誉教授
〃	田村善次郎	武蔵野美術大学名誉教授
〃	西角井正大	国立劇場おきなわ運営財団理事
〃	星野紘	独立行政法人日本芸術文化振興会 プログラムディレクター
〃	渡辺行信	当財団評議員

### 4. 助成決定件数・助成金額

(1) 平成28年度 部門区分別 助成決定件数・金額

部門	申込件数	決定件数	助成金額
民俗芸能	137件	41件	1,800万円
民俗技術	3件	2件	50万円
合計	140件	43件	1,850万円

(注) 都道府県別の助成対象および金額等は、3頁～7頁（民俗芸能の部および民俗技術の部）をご参照願います。

## (2) [ご参考] 助成件数・金額の推移 (金額単位:万円)

年度 (平成)	民俗芸能		民俗技術		合 計	
	助成件数	助成金額	助成件数	助成金額	助成件数	助成金額
3年	24	1,717	5	229	29	1,946
4年	29	1,960	5	190	34	2,150
5年	30	1,958	5	200	35	2,158
6年	34	2,060	6	240	40	2,300
7年	38	2,310	5	190	43	2,500
8年	41	2,550	6	250	47	2,800
9年	41	2,670	6	230	47	2,900
10年	43	2,800	4	140	47	2,940
11年	44	2,845	4	155	48	3,000
12年	43	2,740	6	260	49	3,000
13年	42	2,740	8	260	50	3,000
14年	38	2,590	10	410	48	3,000
15年	33	1,590	2	60	35	1,650
16年	31	1,525	5	125	36	1,650
17年	37	1,650	0	0	37	1,650
18年	35	1,666	2	80	37	1,746
19年	37	1,780	2	70	39	1,850
20年	39	1,810	1	40	40	1,850
21年	38	1,740	4	110	42	1,850
22年	39	1,735	3	115	42	1,850
23年	41	1,814	1	36	42	1,850
24年	48	2,122	6	185	54	2,307
25年	40	1,775	2	75	42	1,850
26年	41	1,802	3	98	44	1,900
27年	40	1,746	4	104	44	1,850
28年	41	1,800	2	50	43	1,850
合計	987	53,495	107	3,902	1,094	57,397

## 5. 助成金目録の贈呈

助成対象者の所在する最寄の明治安田生命支社において贈呈式をおこなう予定。

# 平成28年度 地域の伝統文化 助成対象

(敬称略)

## 1. 民俗芸能の部 (民俗行事・民俗音楽を含む)

41件 1,800万円

地域	フリガナ	助成額 (万円)	活動の概要
	申込団体または個人 伝承行事・芸能・技術の名称		助成目的
北海道	スツツマエカクヲホゾノカイ 寿都松前神楽保存会	50	延宝2年(1674)松前城内で舞ったのが創始。代々13社家が世襲。大正期以降、寿都神社夏祭で23座の演舞を含む33事の舞楽の中から数々の神楽舞と寿都独自の「ヤッサ」を奉納。S24年保存会設立。
	松前神楽		備品購入費の一部として
青森県	イリグチイネカイ 入口青年会	50	江戸末期岩手県二戸、明治期一戸の師匠から伝授。「山伏神楽」で拍子・舞に独自性を持つ。長窪稻荷の春秋例大祭での祈禱を第一に活動。元旦に門打ちし五穀豊穡・家内安全祈願を行い、4日に「幕納め」を行う。
	山伏神楽・東通村の獅子舞		道具・衣装購入費の一部として
青森県	カセッコトノリホゾノカイ 嘉瀬奴踊り保存会	30	新田開発に派遣された藩士の忠僕が即興の奴踊りで慰めたと願人坊が開墾成就祈禱の為勸進したとの両説ある。動きが20余りの部分に分かれ、中腰を基本に激しく速いので長時間踊ることが難しい。日本の北限に現存する貴重な田植踊。
	嘉瀬奴踊		衣装購入費の一部として
岩手県	イダワシホゾノカイ 板沢しし踊り保存会	50	遠州掛川から伝わった板沢しし踊り。弘化3年(1846)藩侯屋敷での披露記録がある。S52年保存会結成、市内13団体で中心的役割を担う。菩提寺への奉納、地元の幼・小・中校への出前指導や地区の祭りで披露。
	板沢しし踊り		しし頭の幕補修費の一部として
宮城県	アカヤクヲホゾノカイ 赤谷神楽保存会	50	M26年現一関市から伝承し橋向神楽を創始。S26年保存会設立し現在名称に変更。地区神社祭礼を始め、県南の神楽大会、自主公演等々で幅広く舞う。昨年は42回公演を行った。過去に33回優勝の実績がある。
	南部神楽		神楽用具購入・修理費の一部として
秋田県	チョウカイヤンコクキョウカクホゾノカイ 鳥海山小滝舞楽保存会	50	鳥海山麓の小滝集落に伝わる二人立一頭の祈禱獅子舞。延宝8年(1680)製の陰陽二つの獅子頭(御宝頭)を継承。刀を採り荘厳・厳粛に舞う数少ない雄獅子の舞。国指定小滝のチョウクライロ舞は、同保存会の別部門。
	御宝頭の舞		衣装・楽器類整備費の一部として
山形県	キョウカシカクヲシツコウカイ 清川獅子神楽実行部会	50	神楽は頭と尾に一人ずつ入る二人立ちで舞い、途中「くわかせるもの」を囃ませる。獅子踊は一人立ちの獅子五頭が剣持ちを先頭にさざらと唄に合わせ踊る。8月の御諸皇子神社例祭では神輿渡御行列に供奉している。
	清川獅子舞・神楽舞		神楽頭・幕・袴購入費の一部として
福島県	オホカワメカクテンブツオドリホゾノカイ 太田川梅若歌念仏踊保存会	70	かつて県内外に3千人近くいた念仏踊継承者は今では30人に激減した。その中で梅若伝説を題材とする当歌念仏踊は、H21年再興。浄瑠璃・歌舞伎の狂言を取入れ供養念仏から語り物まで多彩な演目を持つ。
	太田川梅若歌念仏踊		衣装・道具購入費として
福島県	ウメダサンビキシマイホゾノカイ 梅田三匹獅子舞保存会	50	延宝3年(1675)創始の記録がある獅子舞。一時中断、昭和初期復活以来絶えず継承。宵祭に高行燈に五穀豊穡・家内安全・無病息災と掲げ、笛・太鼓と共に観音堂に向かう。講中世話人が廻り番で祭を運営する。
	梅田三匹獅子舞		用具整備・装束新調費の一部として
栃木県	オホシシマイホゾノカイ 大沢獅子舞保存会	15	元和2年(1616)豊臣の落人が伝えた豊作祈願の獅子舞。那須温泉神社秋祭に奉納。竜頭型1人立ちで腰の太鼓を打ちながら舞うモモガ流。「若居衆規定」により厳格に管理継承されてきた。40戸を2班で交代で行う。
	大沢獅子舞		獅子太鼓・反物修理、獅子太鼓胴巻購入費として
群馬県	サギノミヤガタイカクヲホゾノカイ 鷺宮太々神楽保存会	50	文化2年(1805)以前から咲前神社春秋祭に奉納。S50年復活した。舞は12座。神楽は豊作・養蚕を願って執行する内容で地域独自の発展を遂げた部分は興味深い。江戸期制作と推定される19点の面が現存する。
	鷺宮太々神楽		神楽面修理費の一部として

地域	フリガナ	助成額 (万円)	活動の概要
	申込団体または個人		助成目的
	伝承行事・芸能・技術の名称		
埼玉県	アウダハヤシカイ 粟生田囃子会	50	起源不明だが八坂神社夏祭でS51年から自前屋台を製作し参加。小太鼓・大太鼓・鉦・笛の演奏で獅子・狐・岡目・ヒョッコが舞う木下流の祭囃子。川越や東松山にも同じ流派がある。
	山王新囃子木下流祭囃子		道具購入費の一部として
埼玉県	アウカハヤシゾンカイ 新久はやし保存会	40	江戸末期創始とされる神田ばやし隠岐流の祭囃子。八坂神社夏祭と1月・8月の龍円寺千手観世音祭に奉納。笛・大太鼓・小太鼓・鉦・踊で構成し今も9曲を保持。市内最古の囃子で昔の姿そのものを伝承。
	新久ばやし		獅子頭本体塗替・反物交換費として
千葉県	イノシシノキョウトゲイノウホゾンカイ 家之子獅子連郷土芸能保存会	20	江戸中期創始とされる伊勢系神楽。年5回の行事に、地区内の氏神様・道祖神・寺で獅子舞を奉納。10月の本祭には各戸を回り悪魔祓を行う。S35年保存会設立。勇壮活発な「四足」の獅子舞等の演目を披露。
	大宮山神楽		道具購入費の一部として
東京都	モリヤマハヤシゾンカイ 森山はやし保存会	30	M15年頃、重松流祭囃子の創始者から若者たちが直接指導を受けたのが起源。戦前・戦後2度の休止を経てS51年に活動再開。森山神社春祭奉納や秋祭で御神輿と一緒に巡行する等お祭り気分を盛り上げている。
	森山・重松流祭囃子		囃子道具購入費の一部として
神奈川県	タムラハヤシゾンカイ 田村ばやし保存会	50	鎌倉期創始の祭囃子。江戸期以降八坂神社祭典を中心に継承。7曲が笛のリードで変化する2曲ずつの組曲形式で繰返し軽快なリズムを奏でる。優雅な笛の調べと重厚な大太鼓の響きが特徴。市内外の行事等で披露。
	田村ばやし		備品修理・購入費の一部として
新潟県	カガレンチュウ 小川連中	45	中ノ口川の船頭衆が三条市井戸場から習ったとされ、嘉永年間(1848～53)に現在の形になった。6月の新飯田祭では行列の先頭で、大人の若衆の神楽舞や天狗舞に加え、小中生による6種類の手踊りを披露。
	新飯田御神楽		衣装購入費の一部として
富山県	イセハクサンマチヒキヤマアノウカイ 岩瀬白山町曳山愛好会	50	寛政4年(1792)大火後の災厄防止祈願のあんどん山車曳きが起源。5月17,18日の岩瀬諏訪神社祭で13基が囃子・木遣りの音頭に合わせ巡行する。山車本体上に「たてもん」飾りを取付けて勇壮に曳き回すのが特徴。
	岩瀬曳山祭り		囃子演奏道具購入費の一部として
福井県	ヒヨシイネカイ 日吉青年会	60	江戸中期創始とされ西津地区の3社の氏子が合同で行う祭。隔年の5月の2日間に神輿6基と大太鼓2台が笛・鐘・露払いと共に巡行し、氏子の家々を回る。当会は大太鼓を担当。市のイベントにも参加している。
	西津祭り		長胴太鼓皮張替費の一部として
長野県	カゲヤマク 影山区	50	起源不明だが諏訪大社系の御射山神社例祭に五穀豊穰・悪魔祓い・地区の安寧を祈願し奉納する大神楽。五分一流を継承する近隣の7集落には、当集落から指導者が出向いている。
	五分一流太神楽		神楽獅子購入費の一部として
愛知県	ハクサンゾシヤホリウカガクブヨウホリ 白山神社奉納雅楽舞踊保存会	45	味美白山神社祭礼で行う宝暦6年(1756)創始の渡御行列。本殿で神楽奉納・巫女舞を継承。行列は地区11町内が順番に祭元を務める。市のハワリ祭でも神楽演奏と巫女舞を披露。
	神楽と巫女舞		巫女衣装・道具一式新調費の一部として
三重県	ゴンホマツリホゾンカイ 牛蒡祭保存会	17	慶長3年(1598)の墓目祭起源。当屋で御神体である藁で大きな女根と杉の木で大きな男根を作り、巡行し神社の祭場に祀る。弓神事・ボラを手で触れずおろすまな板神事が古式通り続く。ボラと共に牛蒡が供されるのが名の由来。
	牛蒡祭		装束購入費として
滋賀県	カネハラタコトノリホゾンカイ 金居原太鼓踊り保存会	40	鎌倉時代が起源の雨乞い祈願踊り。近年は八幡神社の春祭に4年に一度奉納。太鼓・鉦などの中踊り子20～30名の側踊りと音頭がつく。太鼓は胸の前で背中に丸帯を垂らしたセタ、短冊を飾った笹竹を背負う。
	金居原の太鼓踊り		締太鼓購入費の一部として

地域	フリガナ	助成額 (万円)	活動の概要
	申込団体または個人		助成目的
	伝承行事・芸能・技術の名称		
京都府	フクチヤマシブツショウジシチカイ 福知山市佛性寺自治会	50	明暦4年(1658)早魃時の雨乞い奉納が創始。八朔に元伊勢3社と地区内の氏神を笛・太鼓のお囃子に合わせ大鳥毛を振りし練り込みする。現在は9月第1日曜日に行う。戦後一時衰微したが、復活。
	元伊勢三社の八朔祭礼		祭礼用具新調・修理費の一部として
兵庫県	クマノジノシキヨウマイホノカイ 熊野神社浄舞保存会	50	赤一色の衣装に鼻高面と鳥兜をかぶり大きな鉾を持つ天狗の舞。前半は鉾を持つ舞、後半は素手で急拍子の舞で斎場を清める。熊野神社秋季例大祭で奉納。神輿渡御の際は先導を務め道中を清める。
	浄舞		天狗衣装・鳥兜購入費の一部として
奈良県	リュウグチシマイホノカイ 龍口獅子舞保存会	40	白山神社祭礼に奉納される宇陀地方の代表的二人立ち獅子舞。優雅に舞う「四方」「御参」、刀を手にして勇壮に舞う「悪魔」、天狗とのアクロハツ的に舞う「天狗」、劇軽者とのユーモアたっぷりに舞う「獅子踊り」の5神楽がある。
	龍口獅子舞		太鼓購入・獅子頭修理費の一部として
和歌山県	ハブハチマンジノシキ「オカシホノカイ」 土生八幡神社「お頭保存会」	38	寛政年間(1789～1800)創始ともされ土生八幡神社秋祭に奉納。囃子は用いず雌雄2人の鬼が持つササと鉾に付いた鈴の気配で踊る古形を継承。雌雄が合体した双頭獅子が特徴。6地区の氏子が輪番で奉納する。
	土生八幡神社「お頭神事」		獅子舞油単購入費として
鳥取県	オウサミミコトジノシキ「シマイホノカイ」 大和佐美命神社獅子舞保存会	14	江戸初期に初代藩主が因幡東照宮を創した際に祭礼の芸能として創設。大和佐美命神社例祭に奉納。他の神社と違うのは、雌雄の獅子があり、舞い方も異なることと本舞の前に雌獅子は真剣を使った剣の舞がある。
	麒麟獅子舞		太鼓皮・胴修理費として
島根県	ノシダニテノトウケイノホノカイ 野石谷伝統芸能保存会	45	佐陀神能を源流とする神楽で明治初年(1868)に有志が見習い帰ったのが起源。S60年代に後継者難等で一時中断、平成15年に再興。「七座」と「能舞」の二部構成で土の香り豊かな方言表現、力強い独特の舞が特徴。
	出雲神楽奉納・伝承技術保存		「八戸」衣装・面購入費の一部として
広島県	シモイタキコミュニティー 下板木コミュニティー	50	庄屋が田植休みに地区の人を招待して行なったもので平安期から昭和の初めまで伝承。S61に保存会が発足し復活、現在コミュニティーが引継いでいる。3頭の飾り牛、緋衣装の30名近い早乙女、囃し方で田植えが描かれる。
	信原田楽大花田植		太鼓バチ・苗籠購入費の一部として
山口県	ムツミカグラホノカイ むつみ神楽保存会	50	M37年島根県津和野町から石見神楽を習い受けたのが始まり。一時途絶えたがS51年に再興、八調子で15演目を伝承。石見神楽分布の周縁にあって祖形を良くとどめ、地元神社秋季大祭奉納、施設慰問参加等実施。
	むつみ神楽		蛇頭・蛇胴購入費の一部として
徳島県	ヒガシツツゴウシマイホノカイ 東辻郷獅子舞牡丹連保存会	21	19世紀中頃、無病息災、五穀豊穡を願い始められた。約40年前に休止状態となっていたがH25年に復活。雄、雌2頭で子孫繁栄を表す「見合い」、互いの勢力を試す「さっさ」、雌雄並んで転げる「和合」の3種類を舞う。
	東辻郷獅子舞		太鼓皮張替費として
高知県	ヒタカムラタチオトリホノカイ 日高村太刀踊保存会	50	嘉暦3年(1329)城主が武運長久を祈願し奉納したのが起源で10月の秋祭りで奉納。12演目あり各々歌詞が異なる。黒紋付き、縦縞袴、手甲脚絆、草鞋、白鉢巻で2列横隊で太刀とシデを手にした者が相対して踊る。
	沖名の花探太刀踊		衣装・模擬刀購入費の一部として
福岡県	モトカキオンハヤホノカイ 元岡祇園ばやし保存会	40	明治初年八坂神社夏祭に祇園山笠と共に奉納したのが創始。戦時中中断、S40年祇園ばやしが復活。締太鼓・銅鑼太鼓・笛・鉦に合わせ3演目を上演。笛は自作で穴の一つに竹の薄紙を貼付するのが独特。
	元岡祇園ばやし		平太鼓張替費の一部として
佐賀県	シヤノフユホノカイ 宮野浮立保存会	50	宝暦年間(1751～63)に武雄邑主が江戸参府の際に岡崎で踊られていた風流を伝えた山内浮立の一つで中央に太鼓を設置し周囲に囃子方が座る。黒髪山の大蛇退治伝説を劇調にした演目「蛇浮立」が有名。
	宮野の浮立		衣装・道具購入費の一部として

地域	フリガナ	助成額 (万円)	活動の概要
	申込団体または個人		助成目的
	伝承行事・芸能・技術の名称		
長崎県	ヨコガヅリホヅンカイ 横尾だんじり保存会	70	浮立を伴うだんじりは豊作祈願や雨乞いで明治初期からあったがS30頃途絶え、H9年に復活。大太鼓の踊りながらの反し打ち、銭太鼓のあでやかな踊り、山車の引回しが特徴。横尾祭りや長崎郷土芸能大会等に出演。
	だんじり		大太鼓購入費の一部として
熊本県	ヒカシカクミタイオドリホヅンカイ 東方組太鼓踊り保存会	30	本年日本遺産に指定された「相良700年が生んだ保守と進取の文化～日本でもっともゆたかな隠れ里一人吉球磨～」の主な構成文化財である臼太鼓踊りの中で最も勇壮に舞う。豊年祭と十五夜踊りが結びつき成立。
	東方組太鼓踊り		太鼓修理・鉦購入費の一部として
大分県	オクラカグラホヅンカイ 岡倉神楽保存会	50	明治初年(1868)豊後大野の犬山神楽から伝授された市内で稀少な浅草流神楽。岡倉地区の長男のみで伝承したが、S50年保存会結成、参加を旧野津原町全域に、その後大分市全域に拡大。33演目保有し17演目を演じる。
	岡倉神楽		衣装購入費の一部として
宮崎県	サカニチクムヲオコシイシキョウギカイ 酒谷地区むらおこし推進協議会	50	獅子舞の起源は不明であるが、古くから地区内の神社を中心に五穀豊穡、無病息災を願い奉納され、11月の例祭では各集落を終日巡り、元旦には希望世帯に出向き披露。協議会は後継者育成等の面で支援。
	獅子舞		獅子頭購入費の一部として
鹿児島県	シゲヒサシヅカミマイホヅンカイ 重久神事神舞保存会	40	田の神舞は止上神社の3月の御田植祭で披露、田の神の面をつけ面白おかしく舞う。薙刀舞・剣舞は7月の御神幸祭の先払いとして舞う。田の神舞は能の形態を備え、薙刀舞は修験道の業を表現、剣舞は真剣を使用。
	田の神舞、薙刀舞、剣舞		衣装・道具購入費の一部として
沖縄県	トモヨシシマイホウジユツホヅンカイ 友寄獅子舞棒術保存会	50	1828年首里王府より獅子頭を拝領したのが起源。旧暦八月十五夜の豊年祭で無病息災・五穀豊穡を祈願。獅子頭は大戦で消失したが型は継承。獅子頭は1969年に再製作。獅子舞は4種類あり他では例を見ない。
	友寄の獅子舞、棒術		獅子修繕費の一部として

2. 民俗技術の部 (伝統的製作技術・衣食住に関わる生活技術・伝統工芸を含む) 2件 50万円

地域	フリガナ	助成額 (万円)	活動の概要
	申込団体または個人		助成目的
	民俗文化財の名称		
愛媛県	NPOホジシヒメダルマプロジェクト	10	神功皇后の道後温泉来湯故事を元に江戸期に郷土玩具として生産される。主に安産祈願、家内円満の縁起物で明治期以降、女性達の内職として定着。高齢の県指定伝統工芸士1人が現役で姫だるま教室等で指導中。 材料購入費として
	NPO法人姫だるまプロジェクト		
	姫だるまの製作技術		
沖縄県	サキハラ カユウシ	40	苧麻から採った糸と植物染料を使って織り上げた八重山伝統の織物。琉球王府(1637～1902)時代の人頭税制下で税の対象とされた。S48年新垣幸子氏が当時の括り染めによる上布を織り始め、その後、復元事業により技法が復活。 道具購入費の一部として
	崎原 克友 氏		
	八重山上布織物技術		